

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200332		
法人名	有限会社 太陽		
事業所名	グループホーム ひまわりの郷		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字寄人1997-1		
自己評価作成日	平成26年7月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年3月2日	外部評価確定日	平成27年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様一人一人の個性を重視し、その人らしさに重点を置いたケアを目指しています。また、スタッフ全員の意識の共有を図り、ケアプランを全員で検討しながら日々のケアに反映しています。入居者が、近隣の住民であり、その暮らしを大きく変えることがないように、地域に根差した介護の実践を行いながら、佐賀の風土に合った生活空間を提供しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな田園風景の中で、ゆったりと流れる日々の暮らしが感じられるグループホームである。管理者は、長年この地域で暮らし、幼少のころより慣れ親しんだ地域住民に、今も見守られながらホームを運営しており、まさに地域密着型としての環境に恵まれ、日常的に普通の付き合いがなされている。法人代表が、『あなたの声を聞かせてください』との思いで設立したホームである。理念にも掲げている「笑顔で暮らせる生活」が、現在の管理者にも受け継がれ、入居者の明るい笑顔、和気あいあいとした楽しいおしゃべりがそれを窺わせる。入居者の思いを全職員が共有し、一丸となり安心して暮らせる生活を提供している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の人権を尊重した理念の基に日々の介護を行い、理念は毎朝、申し送り後に全員で提唱している	毎年4月に会社の方針が決定され、それに基づきホームの目標も作り変えている。また、ホーム独自でも理念を掲げ、地域密着型として住み慣れた地域で安心して暮らせる支援をめざし、毎月の会議でケアのありようを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設管理者が地域の住民であり、また自治会などにも加入しているため常に地域の行事などにも参加し、近隣との交流も多い	地域の一員として自治会に入り、職員は地区の環境整備の担当も引き受けている。地域行事や祭りには準備から参加し、入居者も楽しまれている。ホームの行事には、老人会や近隣から参加するなど、日常的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の区長さんや、民生委員さん等の運営推進委員会等の参加もあり、また近隣の住民の方々とも常に交流があり、施設の説明などの中で理解を図っている。また、散歩等の交流の機会もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に、入居者様の状況報告を行い、サービスの評価や、要望などを検討している。意見の交換の中で出た内容は施設で再確認しながら、実践している	運営推進会議には、区長、民生委員、家族、行政担当者にも出席してもらい、ホームの現況や外部評価内容の報告をし、意見交換をしている。ここでの意見により、地域行事への参加、避難訓練への協力に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には常に鳥栖広域の参加があり、意見の交換を行っている。また地域包括センターへは研修などにて交流があり、必要時は連絡相談などを行っている	運営推進会議で、市の担当者より介護保険の動向等講義をしていただいている。市が主催する研修会や検討会へ参加し、グループホーム協議会では空き情報等意見交換会が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設開設当時より玄関の施錠はせず、自由な雰囲気の中で介護を行い、身体拘束に対するマニュアルを設置し常に研修している	法人内外の研修会に出席し、職員が身体拘束による弊害を理解することで、拘束のない介護を実践している。玄関の施錠はせず、見守りに努めている。入居者が離設された時には、近隣の方の協力を得大事にならずに済んだ。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する、研修会などにも参加し、スタッフ全員で理念を持ちながらケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学び、理解を図っているが、利用はありません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が本人様、家族へ説明を行い、納得理解の上、契約締結を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料金の支払いを必ず施設に来ていただくようにして、家族様との意見の交換の場としている。また必要時は連絡を取り、常に入居者の情報が家族に届くようにしている	年1回家族会を開催し、意見交換をする機会がある。家族代表である会長を中心として意見や要望が出されている。近隣からの入居を受け入れ、顔見知りが多いことは良い関係にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内の運営会議や、ミーティングなどにて意見の交換を行い、反映させている	毎月の会議が、職種に応じて3回実施され、それぞれの会議で職員は自由に発言できる。管理者は、日頃から話しやすい関係を作り、個別の相談も応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議の中で各職場の問題点などを検討し、整備できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、職場内の研修などを常に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加及び各連絡協議会などへの参加により質の向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の聞き取り調査などにて、本人様の思いや要望などを聞き、スタッフ全体にてミーティングを行い、施設での生活が安心して出来るように支援します		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを受け止め、初期段階から常に、連絡相談などが円滑に行えるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のニーズの把握を行いアセスメントにより優先順位を考慮しながら、ケアプランを作成し、実践に繋げています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで過ごしてこられた環境を大きく変えることがないように、その人らしさに重点を置き、家庭的雰囲気の中で生活できるように支援します		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と共にご家族との関係の構築に努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との関係性や知人友人などの面会や電話など支援しました本人様の行きたい場所などを把握し、その思いを出来るだけ、かなえることが出来るように支援を行っている	日常的に手紙や電話の支援をしている。知人や友人も自由に面会に来ていただき、お茶の接待等、関係が途切れないよう配慮している。お寺や墓参り等個別の外出は家族に協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員がフロアにて生活されているため、睡眠時、体調不良時以外は、在室されることなく、孤立状態は現在はありません		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時は相談に応じています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に本人様との会話の中で、思いを聞き取り、アセスメントを行いケアの実践に反映しています	入居者と二人で過ごす時間を作り、思いや希望を汲み取るように努めている。職員が把握した入居者の思いを共有するため、センター方式のアセスメント様式を使用し、職員間で一致したケアの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族との会話の中で情報の把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にアセスメントを行いケアの実践に反映している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、アセスメント、ケアプランの作成を行い、スタッフ全員が担当者を持つことにより施設全体で質の向上に努めている	計画作成にあたっては、職員全員がミーティングに参加し、入居者ごとに思いを組み込んだ計画が作成されている。家族からは事前に希望を聞いている。定期的にモニタリング、評価もされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中で、疑問点や問題点等があれば、その都度小ミーティングを行い、介護計画の検討や、ケアの検討などを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時にはニーズに合った対応を実践します		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は生活保護受給者様の対応を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様の意向や家族の意向などを把握し必要な医療が受けられるように適切に支援します	入居者と家族の希望するかかりつけ医に受診されており、基本は家族の付き添いをお願いしている。しかし、無理な時には職員が対応している。希望により協力病院からの往診もしてもらうことができ、家族への結果報告も行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と共に介護職員も常に入居者様の身体状況把握に努め、カンファレンスなどを行い、緊急時の対応なども看護師の指導の下に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が常勤であり、またケアマネージャーであるためソーシャルワークなども行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明を行い同意を得ている、必要時は主治医、家族様などとの連携により、医療体制を整えチーム全体で支援します	重度化や看取りに対する指針を作成し、入居時に説明、同意を得ている。段階ごとに医師の説明を受け、家族の意向を確認している。看護職員を中心にしたチーム体制ができ、これまでに7件の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの設置や日頃の業務の中で、緊急時の対応が行えるよう常に研修に取り組んでいます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防犯チェックを行い、また防災訓練も年2回以上行っている。運営推進会議の中で、区長さんを通じ地域の方にも協力をお願いをしている	毎月の防災チェックで、消火器やコンセント等の確認をし、日常の防災に努めている。定期的に消防署の指導を受け、避難誘導の訓練を実施している。区長や民生委員等役員の他、近隣住民の協力も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報規定を設け、プライバシーの保護に努めている。接遇研修を受けスタッフ全員で共有し実践している	人格の尊重については、ホームの理念の一つに掲げており、普段から唱和し、立場に立ったケアの実践に努めている。接遇研修にも定期的に参加し、認知症ケア専門士の資格がある職員がケアの指導に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	グループホーム内が家庭的な雰囲気であり、家族のような関係性が出来ているため要望なども表出できると考えられる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望に沿った生活の場を提供しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節のわからない人などもあり全員の身だしなみを起床時にスタッフがそれとなく点検し、必要時は介入します。またお化粧をされる方には介助します		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別性を重視しながら嗜好や好みなどを把握し、食事の中に入れて行きます。準備の出来る人はスタッフと一緒に実施されます	入居者の嗜好や行事に合わせた献立をたて、入居者のできる事を一緒に手伝ってもらいながら、楽しい雰囲気の中、食事の準備がされている。職員も一緒に同じ料理を食べ、おしゃべりと笑い声が流れる食事の時間である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重のチェックや糖尿病等いろいろの状態に応じた支援をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る人は自力でされ、介助が必要な人は介助にて口腔ケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力で出来る方が多く、介助の必要な方やオムツ使用者の方は時間誘導などにて対応している	個別の排泄チェック表をもとに、トイレへの誘導に努め、自立支援を心がけている。尿漏れがあっても、すぐにおむつを使用せず、トイレでの排泄を支援することで、下肢筋力維持も期待できると考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便のチェックを行い必要時は食事内容や水分、運動量などの対策を行い、重症時は内服や浣腸などの対応なども行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は週3回の入浴日を設定しているが、必要時はそれ以外でも対応している	入浴は、一日置きを基本としているが、毎日の入浴の希望があれば、検討し対応している。入浴されない時には清拭で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の希望により対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が内服の支援を行っているので、看護師の指導の下に把握し理解、観察なども行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別性を重視しながら個人的な役割や、全体的なレクリエーション等の中でもその人が楽しみや、喜びなどを持つことが出来るように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	関連施設への外出(観劇、ボランティア等)や散歩、花見など様々の行事への参加を支援している	長閑な近隣の環境を活かし、四季折々の花の見学や日向ぼっこ等戸外へ出る機会が多くある。近隣には同法人のデイサービスがあり、交流が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は一人で金銭所持されている方がおられず少額のおこずかいのみ施設で御預かりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や手紙など、本人様の希望に対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室からどこに出ても同じ雰囲気の中で移動できるように環境整備に努めています	共用空間は大きい食卓台を中心にして集まり、おしゃべりや趣味の時間を過ごし、できる作業を手伝って頂くなど、楽しい時を過ごせる場所となっている。季節の貼り絵や花を飾り、明るく窓からの眺めは自然がいつも感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分なりに決まった場所に座られることが多く、安心される場所になっている考えられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭からなじみの家具なども持ってきていただきますが、認知症の進行により、その家具が居室に置けない方もいられます	入居時には、使い慣れた家具の持ち込みをお願いしている。タンスや椅子等持ち込まれ、落ち着ける居室となっている。家族の写真や趣味の作品を飾り、それぞれ個性が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様は施設が生活の場になられ自分らしく安心して安全に暮らすことが出来るように一人一人に合った居室の場所などの考慮をしている		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない